

平成 26 年度 茨城県立大洗高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	生徒一人一人の自主・自立の精神を確立し、社会人として必要な知識と教養を習得し、地域社会の要望に応えられる豊かな人間性と人格の形成を目指す。社会の一員としてのルールや基本的なマナー（礼儀や言葉づかい、等）の理解・習得に努める。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
基礎・基本を重視した学力の定着のために、少人数学習や習熟度別の積極的な指導を実施した。また校内検定を実施し、基礎・基本を習得させる方策を取り入れた。 また、SHRの5分間を利用して、基礎学力定着のためのドリルを全校で実施する。 また、基本的生活習慣を確立させ、社会性や規範意識を身につけさせるための生徒指導を計画的に実践していくことが肝要である。 さらにこのような指導全体を通して、適切な進路指導を実現していく必要があり、キャリア教育の充実が求められる。	基本的生活習慣の確立及び規範意識の高揚を図る。	①規則正しい生活習慣を確立し、高校生らしい服装・頭髮、身だしなみを習得する。 ②奉仕活動や清美活動に積極的に参加する態度を養い、勤労の心を育てる。		
	学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。 ④学習意欲を引き出すため、生徒一人一人に応じた指導内容の検討や副教材を精選する。 ⑤校内検定の充実を図り、一般常識及び基礎学力の定着を目指す。		
	生徒一人一人の資質・特性にあったキャリア教育を推進する。	⑥進路室の効果的な利用を充実するとともに「進路だより」を発行し、生徒及び保護者への情報提供に努める。 ⑦早期に進路希望を明確にさせ、生徒一人一人の希望に応じた的確な進路指導の充実に努める。 ⑧個人面談やガイダンスを定期的に計画・実行し、個々の進路の実現に向けた指導力の向上に努める。		
	特別活動（特に部活動）等の充実を図る。	⑨部活動への加入率を高め、主体的に活動できる生徒を育成し、学校生活の活性化を図る。 ⑩生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図り、社会性や人間性を養う。		
	地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	⑪校内の情報を、「学校だより」や「学年だより」、ホームページ等により保護者や地域社会に広報し学校の教育活動の理解を深める。 ⑫広報広聴部が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。。 ⑬学校行事への住民参加及び地域行事・活動への職員や生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。		
	学校の実情、生徒の実態に応じた授業の指導体制の構築を図る。	⑭授業公開や授業研究、教員研修を積極的に行い、質の高い教育の提供を目指す。観点別学習状況による評価の研究をより進める。 ⑮教職員が積極的に学校運営に参加できる体制を構築し、活力ある学校を目指す。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	生徒の実情にあった、基礎・基本を重視した授業を展開する。	目標を明確化した授業計画を各教科ごとに策定する。④⑤⑭⑮ 観点別学習状況による評価の研究をより進める。⑭		
		基礎・基本を重視した学習内容を策定する。④⑮		

※評価基準: A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できてない

教科	国語	基礎学力の向上を図る。	授業時小テストやノートの定期点検により、生徒の個々の状況を正確に把握し、個に応じた進度・指導法を行う体勢を目指す。 ④ 生徒一人ひとりの能力を把握するため、授業中や課外での机間巡視や声かけを重視するなどのきめ細やかな指導を行う。 ⑤			
		文学に親しむ態度の育成に努める。	作家・作品に対する興味・関心を引き出す工夫をする。 ⑤ 図書室の活用や図書の推薦など、言語活動を積極的に推進する。 ⑤⑥			
		授業内容の研究に努める。	教材研究や評価などについて十分に研究する。 ⑬ 研修会・研究会へ積極的に参加し、その研修内容を教科で共有する。 ⑬			
	地理歴史	基礎学力の向上を図る。	難解な表現や用語等を平易な言葉や例示で表現し、知識・理解を深めるために資料を活用し、体験活動を取り入れ生徒の理解度や学習意欲の向上を図る。 ④			
		学力の定着を図る。	校内外の研修に積極的に取り組み、生徒の実態にあった言語活動の充実に向けた指導方法の確立や教材開発に努める。 ⑤⑬			
	公民	基礎学力の向上を図る。	難解な表現や用語等を平易な言葉や例示で表現し、知識・理解を深めるために資料を活用し、体験活動を取り入れ生徒の理解度や学習意欲の向上を図る。 ④			
		学力の定着を図る。	校内外の研修に積極的に取り組み、生徒の実態にあった言語活動の充実に向けた指導方法の確立や教材開発に努める。 ⑤⑬			
	数 学	基礎学力の向上を図る。	学習内容の定着のため、小テストを利用して理解度を把握し、必要に応じて補講を実施する。 ④ 少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。 ④⑤ 毎時間、前時の復習をすることで授業内容の定着をはかる。 ④ 言語活動を通して生徒に考える力や表現する力を身につけさせる。 ④⑤			
		授業態度の向上を図る。	授業のノートを定期的に点検し、学びの基礎・習慣をつける。 ①②④ 発問の工夫をし、授業に集中させる。 ②④⑤ 机間指導の時間を増やし、生徒一人ひとりとコミュニケーションをとる。 ④⑤			
		授業内容の向上を図る。	教材研究を充実させ、体験活動を積極的に取り入れ生徒が興味関心をもてるような授業を展開する。 ④⑤⑬ 教科会を密に行い、授業内容・方策等について教科内で研究協議する。 ④⑬ その日の授業の重要箇所を強調し、授業にメリハリをつける。 ④⑤			
		進路に応じた指導を行う。	就職活動に必要な数学の問題をマナトレや校内検定として行う。 ④⑥⑧ 進路に応じた課外を放課後に行う。 ④⑨			
		基礎・基本的な学力の定着	授業での机間巡視や課題の提出を徹底し、質疑応答などの言語活動を通して理解を深め、授業に真剣に取り組む姿勢の定着を図る。 ①②④ 単元ごとに確認プリントを用意し、学習事項の理解度の把握に努める。 ④ 長期休業中に不振者への課外を実施し、基礎的な事項の理解を図る。 ④			
		科学に対する関心の向上	演示実験や視聴覚教材の活用を積極的に図り、学習に対する関心・興味を引き出すよう努め、体験活動への意欲へと発展させる。 ⑤ 原子力開発機構・大洗わくわく科学館など地域との連携に努める。 ⑭ 進路の希望に応じた課外を実施し、発展的な内容の学習を通じて科学への探求心を養う。 ⑨			
	理 科					

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できてない

教科	芸術・保健・体育	体力の向上, 健康の保持増進を図る。	年間を通し筋力トレーニングやストレッチ運動を取り入れ運動量の確保を図り, 基礎体力の向上を目指す。(体力テストAランク+Bランクの割合40%を目標) ④		
		生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力の育成に努める。	運動前後の体調管理に気を配り, ケガや風邪などの防止を図る。 ⑤		
		公正, 協力, 責任などの態度の育成に努める。	選択種目を設定し, 自らが計画し状況に対応した特別ルールなどを発表する言語活動を充実させる。そして, それに基づいた運動を継続的にできるようにする。 ⑤		
			用具等の準備・片づけ, また競技における審判など, 各役割を分担をしてお互いに協力して安全に運動に取り組めるようにする。勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 ①②		
	芸術		時間, 整列, 挨拶, 礼儀等についても指導し, 基本的な生活習慣を確立させる。 ②		
		芸術の幅広い活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに, 感性を高め芸術の豊かな情操を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことのできる題材を精選する。 ⑤		
			音楽の基礎理論を身につけさせ, 言語活動などの表現活動に生かす。 ④		
			様々な楽器の基礎的奏法を身につけさせ, 体験活動をより充実させる。 ④		
			より多様なジャンルの音楽に触れさせる。 ⑤		
			適正な態度で授業に臨ませる。遅刻を許さない。 ①②		
	外国語	基礎学力の一層の定着	理解の不十分な生徒に対し, 学び直し学習に参加させ, 基礎学力の向上を図る。 ④		
			小テスト・プリント・単語練習や校内検定を通して生徒に達成感を味わせる。また, 言語活動や体験活動を通して英語学習の意欲を高める。 ⑥		
			習熟度別少人数編成授業やチームティーチングを実施し, 生徒一人一人の興味・関心・疑問に答えられるようなきめ細かい指導を行う。 ⑤		
		学習規律の確立 資格取得	授業の受け方や学習の方法(ノートを取り方・辞書の使い方)を確立する。 ①②		
	家庭		英検に積極的に参加するよう呼びかけ, 資格取得を目指す。また, そのための課外を行う。 ⑤		
		家庭生活に役立つ基礎学力の定着を図る。	実験実習を取り入れ, 実生活に生かせる授業を展開する。 ④		
			ノートの定期点検を行い, 毎時間ごとの授業内容の理解度を確認し, 次の授業に役立てる。 ④		
		生徒が積極的に取り組める授業の改善に努める。	ものを作る体験活動を通して, 楽しさ, 喜びの得られる教材を選択する。 ⑤		
	情報		一人ひとりの発言を取り入れる言語活動を充実し, 生徒が積極的に授業に取り組めるようにする。 ④		
		提出期限・約束を守らせるように努める。	不振者に対して放課後の指導を行い, 提出物の期限を厳守させる。 ⑤		
			授業に臨む姿勢の確立を図る。 ①②		
		情報リテラシーの基礎・基本を重視した授業を展開する。	チーム・ティーチング等を実施し, 個々の生徒の疑問に答えられるよう充実した指導を行えるようにする。また実生活との密接に関わった事例を用いることで興味関心を引き出し意欲的に授業に取り組めるようにする。 ④⑤		
科	報	情報関連の検定に対応できるように授業の展開を行う。	ワープロ検定やパソコン検定等, 比較的高校生が受検しやすい検定を選択し, 具体的に問題集を使用し, 体験活動を充実させ常に検定を意識した指導を行う。 ⑤		
		情報モラルの指導を実践例を用いて実施する。	インターネット等の授業を行う際に, 具体的な例(メールなどを利用した各種請求等)を取り上げるなどして, 情報モラル・ネットの定着を図る。さらに, 生徒に発表する機会を与え言語活動も充実させる。 ④⑤		

※評価基準: A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

教 科	商 業	情報活用能力の育成を図る。	情報の基礎・基本に加え、ビジネスに即した情報の能力を育成できるよう個別の指導を充実させる。ビジネスの実践的な内容を交えた授業を展開し、課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育み言語活動も充実させる。④			
		情報関連の検定に対応できるような授業の展開を行う。	ビジネス文書検定・電卓検定に加え、情報処理検定等に対応した授業や体験活動を行う。⑤			
科	音	音楽に関する基礎的な知識及び法則を習得させる。	生徒の実情にあった副教材や課題を精選する。⑤			
			基礎理論を幅広く身につけられるようにする。④			
	楽	器楽の演奏に関する知識や技術を習得させ、音楽性豊かな表現の能力を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことのできる題材を精選する。⑤			
			学期に1回の技能テストに、明確な到達目標を設定し、基礎的な演奏力の伸長を図る。④			
			個人レッスンの充実を図り、より体験活動を充実させる。④			

※評価基準: A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できてない

教 務	基礎・基本を重視した指導方法を研究し、生徒の基礎学力の向上に努める。	校内検定を学期はじめに実施し、優秀者は表彰する。また検定試験の実施・分析により、本校生の実態を把握し、基礎・基本的な学習内容の定着に努める。 ④⑥		
		学習意欲を引き出す教材及び授業法の研究に教科ごとに取り組み校内研究授業を実施する。 少人数編成・習熟度別授業を実施し、生徒のニーズにあった授業を展開する。 ⑤⑬		
	成績不振者に対する適切な指導を充実させる。	観点別学習状況の評価方法の研究・研修をさらに深める。 ④⑤⑬		
		定期考査実施前1週間、必要に応じ、成績不振者に対して課題を与えるか、または放課後1時間程度の学習指導を行う。 ④⑤		
生 徒 指 導	基本的生活習慣を確立させる。	成績のおもわしくない生徒に対して、長期休業中、各教科で、必要に応じて4日程度課外指導を実施し、成績の向上に努めさせる。 ④⑤		
		さわやかマナーアップ運動を通し、規範意識や公共心を育成する。 ①②		
		頭髪は茶髪は禁止。服装指導をきちんと着こなす。そして、本年度の本校のさわやかマナーアップ運動学校別テーマ「制服をきちんと着よう」を徹底し社会人として必要な資質を育成する。 ①②		
	問題行動の未然防止に努める。	「あいさつや声かけ」から生徒との対話を積極的に行う。 ②		
		いじめの防止（学校いじめ防止基本方針による） ①		
		生徒との面談や日頃の「声かけ」により、生徒の様子を把握する。 ①②		
進 路 指 導	生徒自らが主体的な進路選択を行い、希望する進路を実現させる。	登下校指導や町内の巡回指導、列車添乗指導など、家庭や地域と連携を図り、校外指導を実施し生徒事故を減少させるよう努める。 ②⑬⑭		
		生徒指導だよりを発行し学校での問題点や指導について家庭との協力体制を深める。 ⑫⑬⑭		
		進路希望調査を実施し、生徒の進路に対する希望を把握し、相談体制を整える。 ⑨		
	生徒の適切な進路を実現させるための進路指導体制の確立する。	ホームルームや総合的な学習の時間等において、3年間を見通した進路指導を行い、各学年において習得すべき目標を定め、生徒の進路意識を高める。 ⑨		
		インターンシップや職場見学を充実させ、生徒の未来志向の考え方と進路意欲を喚起させる。 ⑧		
		進学課外や就職課外を実施し、基礎学力の定着や安定した学力の維持を目指し、広範囲での進路選択ができるように援助する。 ④⑧⑨		
特 別 活 動	学校行事・HR活動を通して、道徳心の育成、規範意識の高揚に努める。	進路相談室の活用を図るとともに進路だよりやガイダンスを通して的確な情報を提供する。 ⑦		
		企業訪問を実施し、地域と連携し就職求人数の安定を図るとともに、企業の求める人材を育成し、早期離職のないよう、学校生活全体でキャリア教育を推進する。 ①②		
	部活動への関心を高める。	③		
		「豊かな心」育成のためのHR活動を年間計画に取り入れ生徒の主体的な参加を促す。 ⑪		
		生徒会・委員会活動を活性化させ、生徒の自主性と責任感を育成する。 ⑪		
		1年生の部活動・同好会への加入を促し、継続的な活動を行わせる。 ⑩		
		部活動の対外的参加を促進し、広報活動との関わりを高める。 ⑫		

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できてない

保 健 厚 生	心身の健康づくり	「保健だより」を発行(学期に1度)。家庭と連携をとり、基本的な生活習慣の確立を図る。 ①⑫		
		性教育講話(1年生対象)を実施し、命の大切さを理解させる。 ①②		
	「環境美化意識」の高揚	校内清掃の徹底(学期に1度大掃除)。 ③		
		地域社会における奉仕作業へ積極的に参加する。リサイクル活動を推進する。 ③		
	「災害・安全意識」の高揚	放射線量率測定(月1回)・学校環境の安全点検・教室内の照度検査・飲料水の水質検査(いずれも年2回)を適切に実施し、速やかに情報を開示し、対応する。 ⑮		
		防災避難訓練の実施 ②		
広 報 広 聴	教育相談の充実	教育相談の活性化やスクールカウンセラーの活用を図り、早期に生徒の悩みに対応する。 ⑮		
	学校の活性化を図る。	本校の教育内容を学校外に公表し、学校生活に前向きな生徒・部活動を熱心に取り組む生徒の情報を収集し、学校全体の活性化を図る。 ⑩		
		音楽コース県外募集については、音楽科主任と連携し、学校訪問等を積極的に実施する。また入学生の出身中学に対しては、近況の報告を定期的実施する。 ⑫		
	開かれた学校づくりの推進を支援する。	中学校の教職員や地域の方々との交流を図る。また、学校便りを配布し広報広聴に努める。 ⑫		
	保護者及び地域との連携を深めることにより、開かれた学校としての事業を推進する。	本校の現状に即したPTA・後援会・同窓会の活動を推進するため、年間役員会を積極的に開催する。 ⑬		
		登校指導(本校昇降口)や校外指導(大洗駅、夏季休業期間の町内巡視)をはじめ、各支部ごとの事業を行い、地域社会との連携に努める。 ⑬⑭		
1 学年	基本的生活習慣の確立。	規則やマナーをまもらせることを徹底し、適切な高校生活を送る事が出来るように指導する。 ②		
		家庭との連携を密にし、遅刻・欠席・問題行動等の指導を迅速に対応する。 ⑫		
		他学年、生徒指導部と連携し服装頭髪指導を徹底する。 ①		
	基礎学力の定着と向上に努める。	授業の重要性を生徒に理解させ適切な学習態度を身につけさせる。 ⑮		
2 学年		授業担当者と連絡をとり、学習環境を整え、生徒の学習意欲を高める指導を心がける。 ①②④		
	進路意識の定着と向上を目指す。	進路指導部と連携し、総合的な学習の時間等を通して学び直しを行い、進路ガイダンスを行うことで、各々にふさわしい進路意識の向上を目指す。 ⑦⑧⑨		
	社会人として求められるマナーの確立を目指す。	生徒指導部や保護者と連携を密にし、生活習慣の定着や規範意識を徹底させる。 ①		
	基礎的な学力の定着・向上を目指す。	H R活動や学年集会、学校行事を通して、社会人として通用するマナーの向上に努める。②⑪ 授業担当者と連絡を密にし、生徒の学習活動を把握するとともに、必要があれば保護者面談等を行う。 ①⑤⑫		
3 学年		授業の重要性を生徒に理解させ、学習環境を整える。 ⑤		
	社会人として求められる基本的な学力の定着・向上を目指す。	授業担当者と連絡を密にし、生徒の学習活動状況を把握するとともに、必要に応じて保護者面談等を行う。 ④⑤		
		適切な学習環境を整え、授業や学習することの重要性を生徒に理解させる。 ④⑤		
		朝の学習や校内検定等において、一般常識及び基礎学力の定着に努める。 ⑥		
3 学年	自ら適切な進路を選択する力を育成する。	進路指導部や生徒指導部と連携し、進路決定に関わる情報をH Rや総合的な学習の時間、学年集会等を通して適切に生徒に伝える。 ⑦⑧⑨		
		社会の一員としてマナーや規範意識を理解させ、習得させることに努める。 ①②		

※評価基準: A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

